

## 教師・教育実習生は授業研究をどのように考えているか？

### 1．教育実習生の授業研究に対する意識

わが国の教師教育プログラムにおいて、学生は、小・中学校の教員免許状を取得するためには4週間、高校の教員免許状を取得するためには2週間の教育実習を行う必要がある。実際の教育実習以外に事前指導・事後指導も行われている。

表1は、千葉大学の貫井・広瀬が1997年に64人の教育実習生に対して実施した実習前後の意識変化に関する調査結果である。それによると、実習前において教育実習生は、子どもの主体性を尊重したり、子どもの実態に合った学習教材を用意したりして授業を行いたいと考えている。

しかし実習後において教育実習生は、事前に準備した計画と実際の授業との違いに気付いたり、子どもとコミュニケーションを図っていくことの難しさを実感している。

表1 教育実習生の実習前後の意識変化

実習前の意識
<ul style="list-style-type: none"><li>・子どもたちが自由に意見を言える授業にしたい</li><li>・子どもの心をとらえた教材を用意して授業をしたい</li><li>・子ども自ら学ぶことのできる授業にしたい</li><li>・子どもたちと一緒に考えていく授業にしたい</li><li>・人の話をしっかりと聞くことができるクラスにしたい</li></ul>
実習後の意識
<ul style="list-style-type: none"><li>・子どもと楽しくコミュニケーションしながら展開できた。日常生活から子どもの個性を把握することに努めたり、コミュニケーションに努めた。</li><li>・自分の想像とは違った子どもの反応にどう対処してよいかわからなくなってしまうことがあった。</li><li>・子どもの願いと教師の願いとのギャップが多くあることを知った。</li><li>・計画と実際では大きな違いがある。私が理解してもそれを子どもたちに理解させ一緒に勉強していくのは難しい。</li></ul>

## 2．教師の授業研究に対する意識

表2は、日本数学教育学会が2000年に476人の小学校教師に対して実施した調査結果である。

わが国の算数教師の特徴として、以下のような傾向があげられる。

子どもと教師とのコミュニケーションを図っている。

実測などの具体的な操作活動や体験活動を取り入れている。

多様な解決が可能な問題を取り上げるなど問題解決能力を伸ばすことに配慮している。

概念的理解を図る一方で、同時に技能練習も行っている。

教師が説明をしたあとに子どもが類題を解決するような説明指導型の授業はあまり行わない。

表2 教師の授業研究に対する意識

項 目	い つ も	しばし	たまに	全く行
	行う	ば行う	行う	わない
問題把握 自力解決 繰り返し 高め という問題解決型授業を行う	11.9%	47.2%	37.1%	3.9%
一つの課題に多数の正解が用意されている問題を使って進める	1.1%	21.2%	52.6%	25.1%
問題を解くことより子どもが問題を作ることを中心にしている	0.2%	11.5%	75.9%	12.4%
子どもの課題意識を大切に子どもと先生のやりとりにより進める	17.3%	48.9%	32.0%	1.8%
資料を集めたり実測したりするとき教室外に出て行う	4.7%	32.4%	57.5%	5.4%
算数内容に関わる作業やものづくりを中心に行っている	1.5%	25.4%	66.5%	6.6%
教科書を使って、その流れにそって進める	16.9%	40.1%	38.6%	4.4%
問題集をやらせることを中心とした技能習熟型授業を行う	4.2%	33.5%	55.3%	7.0%
はじめに先生が重要なところを説明し、あとは課題を解かせて進める	5.8%	28.4%	44.8%	21.0%